

日本庭園学会ニュース

The Academic Society of Japanese Garden News

NO. 92
平成30年

平成30年度 全国大会開催案内

発行 日本庭園学会(会長 鈴木久男)
〒156-8502 東京都世田谷区桜丘1-1-1
東京農業大学 地域環境学部 造園科学科
庭園文化研究室内
TEL(03)-5477-2430(鈴木誠研究室)
<http://www.soc.nii.ac.jp/asjg/>

平成30年度 日本庭園学会全国大会 開催案内

平成30年度の全国大会は、「城下町に残る庭園の保全と活用について」をテーマに実施することになりました。
詳細は、本誌次号にてお知らせします。

記

■日程

平成30年6月16日(土)～17日(日)

■内容

平成30年6月16日(土)

午後 現地検討会(松代駅集合、徒歩で回ります)
夕方 情報交換会

平成30年6月17日(日)

午前 研究発表会、総会、学会賞受賞者講演会
午後 公開シンポジウム
「城下町の庭園の保全と活用」(仮題)

■会場

現地検討会 松代城跡、真田宝物館、真田邸(新御殿)
庭園、民家の庭園、松代大本営跡
情報交換会 未定(松代町内を予定)
研究発表会、総会、学会賞受賞者講演会、公開シンポジウム
サンホール マツシロ(長野市松代町松代
163-9 長野松代総合病院の向かい側)

■参加費

学会員 : 2,000円

非学会員 : 4,000円

*学生は、会員の場合1,000円、非会員の場合は2,000円とします。

*大会参加費は、1日のみの参加でも上記金額を徴収します。

資料代 : 1,000円(大会参加費に含まれているが、別途購入の場合の金額)

現地検討会 : 真田宝物館と真田邸(新御殿)の入場料が500円かかります。

情報交換会 : 未定

<問い合わせ>

宮内泰之(日本庭園学会 総務担当)

電話 : 042-376-8602 メール : miya@keisen.ac.jp

■ 注意事項

長野市松代町には宿泊施設が少ないのですが、長野駅前にはビジネスホテルが多く、路線バスを利用して松代町に来ることができます。(松代高校行き、松代総合病院下車、所要時間 35 分、料金 650 円、1 時間に 2 本運行されています。)松代町内には、旅館は1件しかありません。「定鑑堂」です。安価なゲストハウス(相部屋)は1件あり、「布袋屋」です。松代町郊外には、少し離れますが、「信州松代ロイヤルホテル」と「国民宿舎 松代荘」があります。各宿泊施設のホームページを参照願います。

■ 公開シンポジウム

「城下町の庭園の保全と活用」(仮題)

江戸時代に形成された城下町には、武家屋敷を中心に、庭園が造られていました。真田藩の城下町であった長野市松代町の武家屋敷地区には池庭が数多く残り、庶民の庭として現在まで親しまれてきています。しかし、近年、減少しつつあるのが実態です。そこで、全国各地の城下町に残る庭園を取り上げ、それらの特徴や課題を探ると共に、保全と活用を検討していきたいと思ひます。

平成 29 年度 関西大会現地検討会に参加して

多々良 美春

11月11日、大原三千院の京都市指定名勝の庭園保存修理工事の現地検討会に参加させていただきました。京都市内から大原に近づくにつれて木々の色付きが進み、三千院では、あざやかな紅葉を鑑賞することができるという嬉しいおまけ付きでした。

あいにく午後からは雨の予報どおり、受付時には雨が降り出してしまいました。しかし、見学のあいだは雨が上がり、解散時にはまた降り出すという絶妙のタイミングで、若干足元が危ぶまれたものの、傘を差さずに充実した現地検討会となりました。ひとえに企画して下さいった関西支部の皆様の人徳の賜物と思わずにはいられませんでした。

「有清園」では、立入禁止になっている池対岸に渡らせていただき、普段は見ることの難しい園路手前の護岸の状況まで良く見ることができました。工事の状況については、京都市文化財保護課の今江氏(本学会理事)と、保存修理を担当した株式会社中根庭園研究所のお二人の技術者によって、詳しく丁寧に解説していただきました。

修理前の護岸は、全体的に間詰めや支え石が流出し、護岸石組の崩れや、陥没、欠損が深刻な状態で、早急な対策を要する状況であったそうです。その様子は、まだ修理の行われていない北側の池と、さらに深刻な状況の中島の護岸から見て取ることができました。

一方、修理の完了した南側の池護岸は確かに安定していましたが、まだ修理の行われていない北側の池との違和感がほとんどない仕上がりでした。一旦剥がした苔が順調に回復したためということでしたが、何より丁寧な施工の結果では

ないかと思ひました。

特に興味深いと思ひたことは、護岸石の裏込めに使用する材料について、京都市文化財保護課では独自の土、混合の割合、混合方法のノウハウを持っているということでした。過去の修復の経験から、その土の成分分析をもとに配合を決め、修復現場付近の土を主成分として、加水を調節しながら試作して同等の性質の材料を作っているということです。材料の仕上がりは「感覚」として伝えないと伝わらないため、前の現場で修復の経験のある職人が、請負業者の垣根を超えて次の現場で土の配合や練りの技術の伝達を担っているということでした。このような修復方法の蓄積があるということに感服しました。



〈現地検討会の様子(園池と往生極楽院)〉

SNS を用いた遠隔地からの研究発表

今江 秀史

平成29年度の関西大会では、インターネット（LINE）を用いたビデオ通話機能を用い、遠隔（関東地区）からの研究発表が行われました。その発案者は、森泰規氏（株式会社博報堂）であり、研究発表の表題は「アート・マーケティング発想に対する社会的留保」でした。対応は事務局が行いました。

主要な機材は事前に森氏より預かり、同通話機能の利用に際しては、スマートフォンを受信機と会場撮影用のカメラとして用いました。WiFiが使用できる環境ではなかったため、電話回線を用いることになりました。発表者の画像は、スクリーンに投影され、研究発表後の質問の際は、事務局側でスマートフォンを動かして、会場の質問者の様子を撮影しました。それにより発表者と質問者との意志疎通は、支障なく行うことができました。この取組は、成功であったといえます。なお、SNSは、SkypeでもFacebookなども使用可能とのことでした。

応募の申込み等の公正性からいえば、このようなSNSを用いた遠隔地からの研究発表は、大会には参加できるが、所用でどうしても研究発表会に参加できない方への救済措置と考えた方が適切と考えられます。実際、森氏も大会には足を運んでいただきました。

森氏からは、この本会では新しいといえる取り組みについて「このように「やってみよう」と思うことはすべての始まりです。庭園学会さんにおいても「やってみよう」とお一人ずつが思うようになることが一番良いことだと思います。そしてそれは、通信インフラのことには限らないと思います。」とのコメントを頂戴しました。



〈スマートフォンを用いて遠隔からの研究発表をサポートしている様子〉



〈発表者の画像がスクリーンに投影されている様子〉

【会費納入のお願い】

学会費の納入額をご確認のうえ、納入のほどよろしくお願ひします。また、過年度滞納の方は併せて納入のほどよろしくお願ひします。

協力者：中野理香、小椋菜美（植彌加藤造園株式会社）

日本庭園学会広報委員会

今江秀史、加藤友規

〒606-8271 京都市左京区北白川瓜生山 2-1

京都造形芸術大学日本庭園研究センター気付

日本庭園学会関西支部事務局 FAX(075)791-9342